

＜第53回福島県中学校長会研究協議会相双大会＞

第8小主題【経営課題】



学校と地域の連携・協働による
「チーム学校」と「働き方改革」の実現

＜双葉支会＞

1 はじめに

双葉郡について

双葉郡は、浪江町、葛尾村、双葉町、大熊町、富岡町、川内村、楢葉町、広野町の6町2村から成る、福島県浜通りにある地域です。長年相馬藩が治めた「標葉（しねは）郡」と磐城平藩の治めた「楢葉（ならは）郡」が明治半頃に合併し、二つの葉から成る地域として「双葉郡」と名付けられました。

太平洋に面した温暖な気候に恵まれ農業や漁業を生業とする一方、戦前は常磐炭田の北端として、戦後は東京電力の発電所が複数立地する電源地帯として、エネルギーの供給地でもありました。

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の影響で、一時は郡内の全町村がまちごと避難しました。多くの住民は県内外各地での避難生活を送り、子供たちは一時就学を中断したり避難先が変わるごとに転校したりするなど、生活・学習環境の変化を経験しました。

2 学校、地域の状況



児童・生徒数変化 ※2010年～2024年



双葉郡中学校 9 校 R7.4現在の状況

	なみえ創成中	葛尾中	双葉中	富岡中	楢葉中	広野中	ふたば未来 学園中	学び舎 ゆめの森	川内小中学 園
帰還年 開校年	2018年	2018年		2018年 2022年	2017年	2012年	2019年	2022年	2012年 2021年
学級数	3(2)	2	2(1)	3	3(1)	5	6	6	8
生徒数	26(9)	6	14(2)	22	70(5)	115	178	14(1)	22
教職員数	17	10	12	14	14	16	26	(12)	(10)
備考			R10 帰還予定				県立学校	義務教育 学校	義務教育 学校

※生徒数の()内の人数は特別支援クラスに在籍する生徒数

※職員数の()内の人数は後期課程の教職員数

2025/10/16

双葉郡の現状

- ① 8町村のうち、7町村は地元での学校再開を果たしたが、未だ避難先で学校教育を行っている町が存在する。
- ② 避難で長期間地元を離れていたり、戻らない人が多かったりする現状から、地域コミュニティの衰退がみられる。
- ③ 震災後の帰還、移住に伴う、地域(地域の魅力等)を知らない生徒が増加している。
- ④ 生徒が震災を知らない世代となり、震災の記憶の風化が進んでいる。
- ⑤ 廃炉や汚染水等、世界に類を見ない課題への対応が求められている。
- ⑥ 地域において現状維持を求める層と人口増加・地域活性のために改革を求める層との考えの相違や対立が見られる。

2025/10/16

3 実践の概要

- 双葉郡の復興や持続可能な地域づくりに貢献し、未来を担う人材の育成
- 生徒達の実践的な学びで地域を活性化し、復興につなげる

チーム学校の体制強化 連携すべき地域の復興

(1) 実践のポイント

・地域コミュニティの衰退によって複雑化した教育課題解決のため、関係機関と連携・協力しあう教育体制づくりを強く押し進め、教育と地域復興の相乗効果を創出させていく必要がある。

・教育復興ビジョンを共有し、地域コミュニティの核となる学校づくりを双葉郡8町村が一体となって目指す。



○地域人材の活用、連携・協働による地域探究活動を推進すると共に、

教育効果の最大化を図るため教員の役割の明確化をすすめる。

2025/10/16

福島県双葉郡教育復興ビジョン（将来像）のイメージ図

- 双葉郡の復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で活躍できる人材を育成
- 子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、復興につなげる

双葉郡教育復興の基本的方針

- ① 震災・原発事故からの教訓を生かした、双葉郡ならではの魅力的な教育を推進
- ② 双葉郡の復興や、持続可能な地域づくりに貢献できる「強さ」を持った人材を育成
- ③ 全国に避難している子供たちも双葉郡の子であるという考えのもと、教育を中心として双葉郡の絆を強化
- ④ 子供たちの実践的な学びが地域の活性化にもつながる、教育と地域復興の相乗効果の創出
- ⑤ 双葉郡から新しい教育を創り出し、県内・全国へ波及

各学校段階を通じて一貫した価値観の教育目標とカリキュラムによる教育

長期的に双葉郡の復興を担うことに加えて、全国や世界に貢献できる人材を育成
課題解決型学習（アクティブラーニング）や海外留学を導入し、主体的に学ぶ力や、思考力、実践力等を育む

各学校段階を通じて一貫した教育

大学等との連携・進学

復興学科等における一貫した価値観を共有した人材育成
人材育成のビジョンを共有したうえで、双葉郡の教育に協力
※ 全国や海外の多様な分野の大学進学や、技術者としての就職など幅広い進路を想定
推薦枠や入試選考基準の転換

中高一貫校の設置

双葉郡内に進学先となる高校と、6か年を効果的に活用することを目的に、併設型中高一貫校を設置



避難している子供たちの受け皿となる幼稚園・小学校の整備

将来的には、多数の子供たちが区域外就学している地区や郡内の低線量地区に、受け皿となる幼稚園・小学校を設置する方向で検討
※ 既存の町立小学校に配慮

学校と地域コミュニティの連携
学校を地域コミュニティの核と位置づけ、教育と地域復興の相乗効果を創出

企業・NPO等との連携
双葉郡の産業づくりとも関連した人的・財政的支援を実施

避難している子供たちや住民との絆づくり
区域外就学している子供たちへの連絡機能を強化するとともに、再会の集いなどの絆づくり・場づくりを定期的・継続的に実施
※ 子供たちが実践的な学びとして企画・実施

各町村立幼小中学校間の連携
各町村立学校間での相互受入れを検討。中高一貫校との連携

※ 双葉郡8町村・県・国・大学等による協議体で推進、福島県・国による支援

2025/10/16

3 実践の概要

(2) 実践の視点 ～研究の手引きより～

視点1 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方

視点2 チームとしての学校と地域の連携・協働体制の在り方

視点3 専門スタッフ等との連携による教員の働き方改革の実現

※令和7年度は視点1、2を中心としての研究実践を行う

2025/10/16

(3) 研究計画

1年次 アンケート内容の検討と実施 実践事例の収集と共有



- ① 組織的対応力の状況について
連携方針の共有 校務分掌の明確さ 情報共有の質 組織対応による成果
- ② 連携・協働体制の在り方について
双葉郡教育復興ビジョンの理解 外部連携の有効性 保護者や地域住民の学校理解
- ③ 働き方改革の実現について
授業支援・生徒支援の充実 専門スタッフとの分担による負担軽減 効率的な情報共有

2年次 アンケートの実施と分析、共通課題・共通実践事項の確認 実践事例の収集と共有

3年次 アンケートの実施と分析、経営課題の解決に繋がる実践事例の収集と評価、共有

2025/10/16

3 実践の概要

(4) 実践状況

視点1 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方

【事例1】アドバイザーの協力支援によるキャリア教育推進



(校長としての関わり)

- ・生徒の社会的・職業的自立を目的として「地域連携型のキャリア教育」に注力できるしくみづくりを行った。
- ・学校事務職員を予算担当として配置することにより、担当教員の負担軽減を行った。

2025/10/16

【事例2】学校司書を活用した学校図書館のセンター機能強化



(校長としての関わり)

- ・学校図書館のセンター機能を強化するため、町教育委員会と連携し、学校司書を配置してもらい書籍の整理と購入を進めた。
- ・日程に朝の読書時間を確保した。
- ・授業での図書館利用や書籍の活用強化の呼びかけを行った。

2025/10/16

【事例3】元プロボクサーによる食育授業の実施



(校長としての関わり)

- ・学校のビジョンの共有するため、計画作成段階で協力者との懇談を実施した。
- ・担当教員への指導助言や保護者への説明を行い目的やねらいを共有化した。

2025/10/16

3 実践の概要

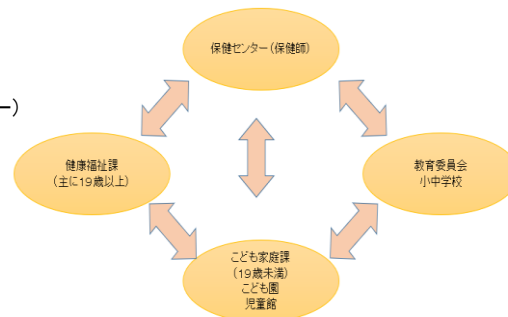
(3) 実践状況

視点2 チームとしての学校と地域の連携・協働体制の在り方

【事例1】こども関係機関会議を活用した個に応じた支援体制整備

<構成機関>

- ・子育て世代包括支援センター(保健センター)
- ・こども園、小学校、中学校
- ・児童館
- ・教育委員会
- ・こども家庭課
- ・基幹相談支援センターふたば
- ・相談支援双葉事業所



※子育て世代包括支援センター(保健センター)

(校長としての関わり)

- ・各関係機関に生徒支援の状況や課題について説明を行った。
- ・必要に応じて連絡・相談・支援の依頼が行えるように各機関との関係性を築いた。

2025/10/16

【事例2】 地域文化伝承教室の活用促進



(校長としての関わり)

地域の教育資源を最大限に活用した教育活動の実践が図られるように、

・地域コーディネーターと毎日情報交換や打合せを行った。

・地域連携担当教員、地域コーディネーター、地域学校協働推進員と定例の打合せを毎月実施した。

2025/10/16

4 成果と課題

○成果

外部講師を活用した新たな学びの場の設定 → 仕事量の軽減 教職員の協働性の向上

地域と一体となった教育活動 → 地域社会の活性化への寄与・絆づくり

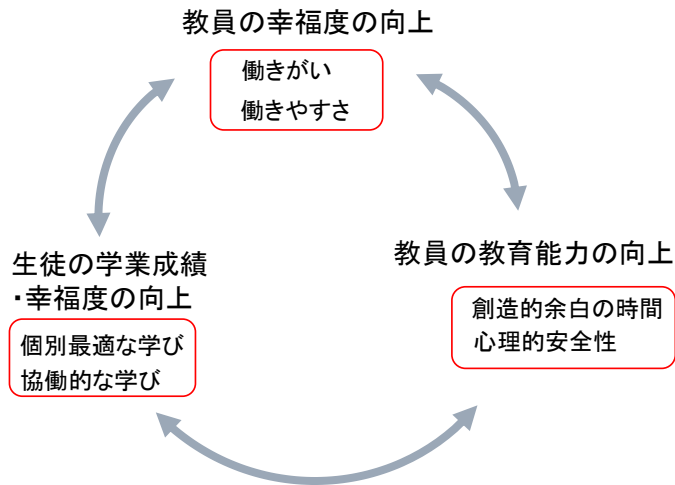
多様な世代のゲストティーチャー活用 → 生徒のキャリア形成

学校司書の活用 → 学校図書館のセンター機能強化、読書量の増加

学校事務との連携、町の関係機関会議への参加 → 業務負担、抱え込みの軽減

2025/10/16

働き方改革



2025/10/16

4 成果と課題

△課題

多岐にわたる課題を各分掌・学年、校種間を越えて業務改革を進めることの困難性

単年度完結型テーマ学習→ 9年間の学びを見通した系統性のある発展的な学習

学校の学びに応じた支援者(講師)が少ない→ 関係団体との横のつながり強化

校長や地域連携担当教員を中心とした連携体制→ 学校外部のコーディネータを介した組織的な連携(双葉郡地域学校協働本部の活用促進)

2025/10/16

ふたばの取組 TOPICS

ふたばの地域学校協働活動

双葉郡の学校では積極的に多様な主体と連携した取組をすすめています。
今年も様々な分野で外部講師にご協力いただきました。

**梅檀祭に向けたせんたん太鼓
合同練習**

野村 好孝 先生
今泉 幸雄 先生



双葉南・北小学校
双葉中学校

障害ってなんだろう

亀田 沙貴 先生
道新福祉支援センター



広野中学校

表現運動 (リズムダンス)

古賀 未来 先生



なみえ創成小学校

防災リーダーを目指そう

天野 和彦 先生
(福島大学)



富岡小学校

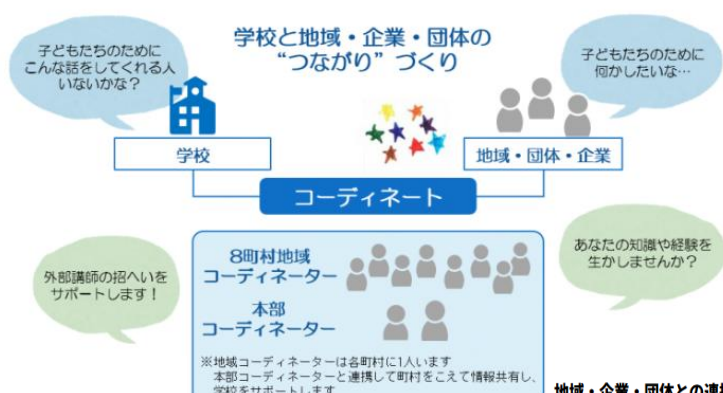
双葉郡地域学校協働本部

2015年に発足。双葉郡8町村の地域コーディネーターが連携して地域や企業
団体との協働を進めるために立ち上げた、双葉郡の学校の「応援団」です。
学校のニーズに合った外部講師の招へい等、町村の垣根を越えて情報を共有
し合いながら、子どもたちの学びの場を広げています。

2025/10/16

地域コーディネーターの役割

学校と地域・企業・団体の
“つながり” づくり



学校

地域・団体・企業

コーディネート

8町村地域
コーディネーター
本部
コーディネーター

※地域コーディネーターは各町村に1人います
本部コーディネーターと連携して町村をこえて情報共有し、
学校をサポートします

双葉郡地域学校協働本部

主な活動

学校との連携・協力

- ・ ニーズに応じた講師・団体の紹介
- ・ 講師・団体との交渉・調整
- ・ 外部と連携した授業等の立ち合い・サポート
- ・ 学校支援ボランティアの募集・活動支援
- ・ 地域等と連携した授業づくりをサポート など

地域・企業・団体との連携・協力

- ・ 学校での出前授業や活動の相談・企画
- ・ 出前授業の企画作成への協力
- ・ 学校・教育委員会等への案内・紹介
- ・ 出前授業や活動の立ち合い・アドバイス
- ・ 学校でのボランティア活動の支援 など

↓

更なる活用促進

2025/10/16

おわりに

双葉郡の復興・教育の魅力化のために…



学校を核としたコミュニティの再構築



現行学習指導要領理念

「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」

学校と地域の連携・協働による

「チーム学校」と「働き方改革」の実現

2025/10/16

ご静聴ありがとうございました

2025/10/16